

# 平和への祈りを込めて「平和企画展」を開催しました。

平成 25 年 8 月 14 日 ~ 8 月 21 日

カルスタすぎとオープンギャラリー

戦争のない平和な社会への祈りを込めて、杉戸町では今年も平和企画展を開催しました。今年度は、『マーシャルはいま ~ 故郷への道~』と題し、アメリカの核実験場として 12 年間に 67 回もの核実験が行われ、60 年近くが経過した今でも深刻な被害にさらされている、太平洋のマーシャル諸島をクローズアップし、フォト・ジャーナリストしまだ こうせい島田興生さんの 40 年にわたる取材によって撮影された写真の数々と、ロンゲラップ環礁住民の半世紀余を綴った年表等が展示されました。

また、隣接するブースでは、町内の NPO 法人の協力により、国内友好都市富岡町の今を、写真で紹介したコーナーが設けられ、祈りを込めた短冊に、来場者が応援メッセージを書き込みました。

8 月 17 日 に行われた特別イベントでは、延べ 120 名の方が来場し、映画上映前に行われたミニ講演会では、都立第五福竜丸展示館学芸員の市田真理さんのお話に、涙する方もいらっしゃいました。

参加した方からいただいたアンケートでは、「忘れてはいけない事、次世代に伝えたい」「今まで知らなかったことを知ることが出来た、平和なことが改めて大切に思えた」などの感想が寄せられました。

## 展示資料

No.	作品 No	タイトル	作品サイズ	備 考
1	1	展示バナー	1.2m * 1.6m * 6 枚	
2	2	アクリル板マーシャルの人々	A3 ヨコ 11 枚	
3	3	マーシャルの子供たち	A3 ヨコ 8 枚	
4	4	ダイジェスト解説	A3 タテ 12 枚	
5	5	現物資料	民芸品・切手・国旗等	
6	6	マーシャルの子供たちの絵	シート 140 * 140 * 1 枚	
7	以上			

## 展示風景



開催期間中のカルスタすぎと来場者数 のべ約7,134人

8月17日 特別イベント 受付カウント 120名

杉戸町国際交流協会提供 第1回国際協力・理解講座

忘れてはならない 広島の人



戦争と暴力が支配した時代の中、人道支援に奔走した医師がいた……

被爆直後の広島に入り、マッカーサーを説得し、連合軍から15tもの医薬品で被爆者の支援にあたったスイス人医師 マルセル ジュノーを知る人はあまりいません。当時の日本では入手困難な貴重な医薬品も含まれていて、1万人の患者が1ヶ月間治療できる量だったと言われています。



## アニメ『ジュノー』のあらすじ

修学旅行で、広島平和記念公園を訪れた中学生の美依と優子。公園の片隅にポツンと立つ「マルセル・ジュノー博士」と刻まれた顕彰碑を見つけます。「誰？ 何した人なの。」

と、突然ふたりは不思議な光に包まれ、意識だけが時空を越え70年以上前のヨーロッパへ。

1935年。フランス、ミュルーズの病院で働いていた青年医師ジュノーは赤十字国際委員会の派遣員としてエチオピアへ向かいます。戦争という悲惨な現実を目の当たりにしながらも、不屈の精神で立ち上がり、戦火に苦しむ人々に惜しむことなく愛の手を差し伸べるジュノー。

「この人、どうしてここまで人のために立ち上がれるの？」

その姿をみた美依と優子は、問題を抱えた自分たちをかえりみるのでした……



## 杉戸宮代平和委員会提供作品

高知県の高中生がつくったドキュメンタリ映画 『ビキニの海は忘れない』

第五福竜丸がビキニの水爆実験で被爆したことは有名だが、高校生たちが疑問に思ったのは「被爆したのは第五福竜丸だけ？」という素朴な疑問だった。

宿毛、土佐清水、室戸 先輩の死を追っていた後輩たち……。

彼らは聞き取りを続け、ついに被爆船は第五福竜丸だけでなく、のべ856隻にも及ぶこと、そして船員たちは健康に不安をかかえ、なかには重い放射能障害に苦しみみずから命を絶った若者もいたことも突き止めた。この映画は、そんな高校生たちの活動を追った真実の物語です。ナレーターは高校生たちの活動に共感した吉永小百合さんがつとめます。



ミニ講演会 『選択 ～ふるさとへの道～』  
都立第五福竜丸展示館 学芸員 市田真理 氏



## 8月17日 タイムスケジュール

午前の部	10:00 ~	ミニ講演会 『選択 ～ふるさとへの道～』 都立第五福竜丸展示館 学芸員 市田真理 氏
	10:30 ~	ビキニの海は忘れない (上映時間 45 分)
	11:30 ~	ドクター ジュノー (上映時間 60 分)
午後の部	13:00 ~	映画解説 第五福竜丸 学芸員 市田真理氏
	13:30 ~	ビキニの海は忘れない (上映時間 45 分)
	14:30 ~	ドクター ジュノー (上映時間 60 分)

ご来場いただいた皆様から様々なご意見を頂きました  
以下にアンケートの一部をご紹介します。

10代 女子

私たちの知らない間に、色々なことがあったんだと始めて知りました。

10代 男子

写真が多く、ビキニ環礁やマーシャル諸島の人々のことが良く分かった。  
今回の企画展についての本の販売をして欲しかった。

20代 男性

戦争や災害は悲惨だと思いました。

30代 男性

3.11の後、ロンゲラップ島や第五福竜丸の状況は、私たちの身近な  
ことになり、決して忘れてはならないことだと強く感じました。

40代 男性

島民や子供たちの写真を見て心が痛みました。今のアメリカはとても  
好きな国ですが少し残念に思いました。どんなことをしても、人間を実  
験台に使ってはいけない

40代 男性

年表などもあり分かりやすかったが、もう少し小学生にも分かりやすい  
何かがあればもっと良かった

50代 女性

初めて知ったことが多く、大変衝撃を受けました。放射能の影響のすご  
さに背筋が凍ります。

富岡の方々の様子が少しでも知れてよかったです

60代 男性

福島第一原発事故の現在と将来を見ているような感覚にとらわれまし  
た。国は帰郷を進めるが本当に安全なのか？数年後・数十年後の発症等  
に、今現在の誰が責任を持つのか？今後マーシャルと同じように、無責  
任な国の態度が露出してくるのでは？

70代 男性

展示の意図を明確にして欲しい。もっと足元をみつめて、しっかり地着  
いた平和運動をしないと、ただ平和を唱えているだけでは力にはならな  
いのでは？